

Micro Focus[®] Enterprise Analyzer[™]

ENTERPRISE ANALYZER のインストール



Copyright © 2014 Micro Focus (IP) Ltd. All rights reserved.

Micro Focus (IP) Ltd. has made every effort to ensure that this book is correct and accurate, but reserves the right to make changes without notice at its sole discretion at any time. The software described in this document is supplied under a license and may be used or copied only in accordance with the terms of such license, and in particular any warranty of fitness of Micro Focus software products for any particular purpose is expressly excluded and in no event will Micro Focus be liable for any consequential loss.

Micro Focus, the Micro Focus Logo, Micro Focus Server, Micro Focus Studio, Net Express, Net Express Academic Edition, Net Express Personal Edition, Server Express, Mainframe Express, Animator, Application Server, AppMaster Builder, APS, Data Express, Enterprise Server, Enterprise View, EnterpriseLink, Object COBOL Developer Suite, Revolve, Revolve Enterprise Edition, SOA Express, Unlocking the Value of Legacy, and XDB are trademarks or registered trademarks of Micro Focus (IP) Limited in the United Kingdom, the United States and other countries.

IBM®, CICS® and RACF® are registered trademarks, and IMS[™] is a trademark, of International Business Machines Corporation.

Copyrights for third party software used in the product:

- The YGrep Search Engine is Copyright (c) 1992-2004 Yves Roumazeilles
- Apache web site (<u>http://www.microfocus.com/docs/</u> <u>links.asp?mfe=apache</u>)
- Eclipse (<u>http://www.microfocus.com/docs/links.asp?nx=eclp</u>)
- Cyrus SASL license
- Open LDAP license
- All other trademarks are the property of their respective owners.

No part of this publication, with the exception of the software product user documentation contained on a CD-ROM, may be copied, photocopied, reproduced, transmitted, transcribed, or reduced to any electronic medium or machine-readable forEnterprise Analyzerithout prior written consent of Micro Focus (IP) Ltd. Contact your Micro Focus representative if you require access to the modified Apache Software Foundation source files.

Licensees may duplicate the software product user documentation contained on a CD-ROM, but only to the extent necessary to support the users authorized access to the software under the license agreement. Any reproduction of the documentation, regardless of whether the documentation is reproduced in whole or in part, must be accompanied by this copyright statement in its entirety, without modification.

U.S. GOVERNMENT RESTRICTED RIGHTS. It is acknowledged that the Software and the Documentation were developed at private expense, that no part is in the public domain, and that the Software and Documentation are Commercial Computer Software provided with RESTRICTED RIGHTS under Federal Acquisition Regulations and agency supplements to them. Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of The Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFAR 252.227-7013 et. seq. or subparagraphs (c)(1) and (2) of the Commercial Computer Software Restricted Rights at FAR 52.227-19, as applicable. Contractor is Micro Focus (IP) Ltd, 9420 Key West Avenue, Rockville, Maryland 20850. Rights are reserved under copyright laws of the United States with respect to unpublished portions of the Software.

概説

1

この資料では、レガシー・アプリケーションの分析、マイニング、お よび再設計するための一連のソフトウェア製品である ENTERPRISE ANALYZER をインストールして構成する方法について説明します。 ENTERPRISE ANALYZER は、アプリケーション・リポジトリー(アプ リケーションにおけるオブジェクトを記述し、そのオブジェクト同士 がどのように相互作用するのかを記述するアプリケーション・リポジ トリー)のデータベースにアクセスできるマルチユーザー環境でデプ ロイされます。リポジトリーのセットアップはマスター・ユーザーが行い ます。これにより、チーム・メンバーは自分の作業に自分の裁量で集中 できるようになります。

ENTERPRISE ANALYZER インストール済み環境は、以下のコンポー ネントで構成されます。

- ENTERPRISE ANALYZER サーバーは、ENTERPRISE ANALYZER ワークスペース・ファイルおよび関連サポート・ファイルをホス トします。
- ENTERPRISE ANALYZER クライアントは、サーバー上のワー クスペースに接続するために使用されるリンク・ファイルをホ ストします。
- あるサイトでは、マスター・ユーザーのみがワークスペース・ソ ース・ファイルに Windows から アクセスできるようにしますが、 ENTERPRISE ANALYZER 上では通常のユーザーもソース・ファ イルを使用できるようにする必要があるとします。ENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバーは、このようなサイト用のオプシ ョン製品です。ワークスペース・フォルダーの特権が正しくセッ トアップされていれば、通常のユーザーは、ENTERPRISE ANALYZER 上でソースを表示したり分析したりできますが、それ 以外の目的ではそのソースにアクセスできません。

この資料では、データベース・クライアントがまだインストールされて いないサイトに対して、リポジトリーへの接続に使用されるデータベー ス・クライアントをインストールして構成する方法についても説明しま す。データベース・クライアントは、必ずワークベンチ・クライアント またはワークベンチ・サーバーのインストール先にインストールする必 要があります。

インストール作業

ENTERPRISE ANALYZER のインストールに関する作業、およびその 作業の実行順序について以下の表で説明します。

作業	順序	注記
データベース・クライア ントのインストール	1	Enterprise Analyzer は SQL Server Express を自動的にインス トールし ます。10Gb 以下のリポシ トリの場合 はこれを使います。 それ以外の Oracle、DB2 などを使 用 する場合には事前にクライアン トソ フトウェアをインストールす る必要 があります。
サーバーへの ENTERPRISE ANALYZER のイン ストール	2	
サーバーへの Java アド オンのインストール	3	オプションです。
ファイル・サーバーの インストール	4	オプションです。
クライアントへの ENTERPRISE ANALYZER の インストール	5	
ファイル・サーバー・ク ライアントのインストー ル	6	オプションです。

デプロイメント

ENTERPRISE ANALYZER の標準デプロイメント・シナリオを以下の 図に示します。青の投げ縄内のノードは、製品を意味しています。それ ぞれのマシンが実行する役割と、その主要な関係については、以下の セクションで説明します。



メインフレームおよびネットワーク・サーバー

メインフレームは、ENTERPRISE ANALYZER でモデル 化されるアプリケーションをホストします。アプリケーシ ョン・ソース・ファイル は、FTP または SFTP を使用し てメインフレーム(および、必要に応じて ネットワー ク・サーバー)から ENTERPRISE ANALYZER サーバー にダウンロードされます。

リポジトリー・サーバー

リポジトリー・サーバーは、1つ以上のマルチユーザ ー・リポジトリー (ENTERPRISE ANALYZER ワークスペ ースごとに1つのリポジトリー)の データベースをホス トします。

注: データベースは、お客様が所有するデータベースを 想定しています。データベースはこの製品に付属していません。

このサーバーには、解析データと分析出力のためのネッ トワーク・ア クセス可能な集中型ストレージが備わって います。ENTERPRISE ANALYZER のサーバー・マシン とクライアント・マシンは、ODBC を使用してリポジト リー・サーバーにアクセスします。

ENTERPRISE ANALYZER サーバー

ENTERPRISE ANALYZER サーバーは、ワークスペース、 ワークスペース・サポート・ファイル(ワークスペース のロード時にワークベンチによって作成されるアプリケ ーション・ソース・ファイルのコピーを含む)、およびワ ークスペース出力をホストします。このサーバーは、複数 のプロセスを利用してオンライン・モードまたはバッ チ・モードでの解析パフォーマンスを向上させます。

解析データは、ODBCを使用してリポジトリー・サーバーに送信されます。一部の分析出力は、ワークベンチ・ サーバーにも保管されます。

注: ENTERPRISE ANALYZER サーバーは、 ENTERPRISE ANALYZER リポジトリーと 同じマシンに 共存させることはできません。

ENTERPRISE ANALYZER クライアント

ENTERPRISE ANALYZER クライアントは、チーム・ メンバーがワー クベンチ・サーバー 上のワークスペ ースに 接続するときに使用する リンク・ファイルを ホストします。このクライアントは、ODBC を使用して、 リポジトリー・サーバーに保管されているリポジトリ ー・データにアクセスします。

シングルユーザ・インストール

ENTERPRISE ANALYZER を一台のコンピュータ上 のシングルユーザのみが利用するワークスペース を構築するように構成することができます。この場合 自動的にインストールされる SQL Server Express を 使用してローカルマシンでワークスペースを作成する ことができます。ENTERPRISE ANALYZER はワークスペ ース用のデータベースを自動的に作成しますので利用 者の手間がかかりません。SQL Server Express を使用 する場合、ワークスペースを作成した Windows ユーザ ーが適切なアクセス権を持つように構成する必要があ ります。SQL Server Express をインストールしたユー ザーは常にこの権限を持ちますので注意する必要はあ りません。

注 : SQL Server Express ではデータベースのサイズ の上限が 10GB となります。

データベース・セットアップ

DB/2 または Oracle を使用する場合、DBA は、あなたが作 成し ようとしているリポジトリーごとに 1 つのスキーマをセ ットアップする必要があります。リポジトリーにアクセスす るワークベ ンチ・ユーザーはいずれも、リポジトリーに対 して適切なアク セス権を持つデータベース・ユーザーの資 格情報を指定する必 要があります。

Microsoft SQL Server を使用する場合、DBAは、あなたが作成し ようとしているリポジトリーごとに1つの SQL Server データ ベー スをセットアップする必要があります。リポジトリー にアクセスするワークベンチ・ユーザーは、通常はWindows 認証を使用 します。

DB/2ユーザー特権

ご使用のサイトで DB/2 データベースが使用されている場合は、 あなた が作成しようとしているリポジトリーごとに、担当の DBA がデータ ベース・スキーマをセットアップする必要があ ります。ENTERPRISE ANALYZER EE に付属 のスクリプトを 使用して、DB/2 のデータベースと表スペース、および 必要な スキーマを作成します。このスクリプトは、ENTERPRISE ANALYZER EE インストール・ディレクトリーの「DB2 Scripts」 フォルダーにあります。

データベースおよび表スペースの作成

ENTERPRISE ANALYZER EE に付属の以下のスクリプト を実行して、DB/2のデータベース と表スペースを作成し ます。

- crtEnterprise Analyzerdb.cmd をダブルクリックして、 データベースを作成します。
- エディターで crttblspace.cmd を開きます。
 [ADMINISTRATOR_USER_ NAME] および [PASSWORD] を、 データベースの管理特権を持つユーザーのユーザー名とパ スワードで置き換えます。ファイルを保存して閉じます。
- 3) crttblspace.bat をダブルクリックして表スペースを作成しま す。

必要に応じて、データベース (Enterprise Analyzerdbrtwdb)、バッファー・プール(Enterprise Analyzerbp)、および表スペース (Enterprise Analyzertblsp)の名前を変更できます。名前を変更す るときは必ず、その名前を参照するすべてのスクリ プトで変更してください。

注:表スペースのページ・サイズは32Kでなければなりません。パフォ ーマンス上の理由から、データベース索引の保管に使用する表 スペースを別に指定することをお勧めします。ユーザーは、 ENTERPRISE ANALYZER ワークスペースを作成するときに両 方の表スペースを指定します。ワークスペースの作成方法につ いては、ワークベンチ資料セットにある「始めに」を参照して ください。

スキーマの作成

作成しようとしているリポジトリーごとに1つのDB/2スキー マをセットアップします。ENTERPRISE ANALYZER EE に付 属の以下のスクリプトを実行して、スキーマを作成します。

 エディターで crtschema.cmd を開きます。 [ADMINISTRATOR_USER_ NAME] および [PASSWORD] を、データベースの管理特権を持つユーザーのユーザー 名とパスワードで置き換えます。[SCHEMA_NAME] が使用 されている各個所をスキー マの名前で置き換え、 [USER_NAME]が使用されている各個所をデータベー ス・ユーザー名で置き換えます。ファイルを保存して閉 じます。

2) crtschema.bat をダブルクリックして、スキーマを作成します。 作成する必要のあるスキーマごとに、上記のステップを繰り返 します。 リポジトリーにアクセスするワークベンチ・ユーザーはいず れも、スキーマに対して適切なアクセス権を持つデータベー ス・ユーザーの資格情報を指定する必要があります。通常、 これは Windows ドメイン・ユーザーの資格情報です。必要な 特権を以下の表に示します。

タイプ	特権
データベース特権	BINDADD CREATETAB CONNECT IMPLICIT_SCHEMA
スキーマ特権	CREATEIN DROPIN ALTERIN
表スペース特権	USE OF

Oracleユーザー特権

ご使用のサイトで Oracle データベースが使用されている場 合 は、あな たが作成しようとしているリポジトリーごとに、 担 当の DBA がデータ ベース・スキーマをセットアップす る必 要があります。リポジトリー にアクセスするワークベ ンチ・ ユーザーはいずれも、スキーマに対して適切なアク セス権を 持つデータベース・ユーザーの 名前とパスワード を指定する 必要があります。必要な特権を以下の表に示しま す。

タイプ	特権
役割	GATHER_SYSTEM_STATISTICS (「データ ベース統計の計算」 メソッドに関して のみ必要です。ワークベンチ資料セッ ト にある「始めに (Getting Started)」を参照してください。)
システム特権	ALTER SESSION CREATE SESSION CREATE PROCEDURE CREATE SEQUENCE ALTER ANY SEQUENCE CREATE SYNONYM CREATE TRIGGER CREATE ANY TABLE DROP ANY TABLE ALTER ANY INDEX CREATE ANY INDEX DROP ANY INDEX [UNLIMITED TABLESPACE]
オブジェクト特権	SELECT on SYS. V_\$INSTANCE SELECT on SYS. V_\$SESSION SELECT on SYS. V_\$PARAMETER

SQL Server データベースのセットアップ

Microsoft SQL Server を使用する場合、DBAは、あなたが作成 しようとしているリポジトリーごとに 1つの SQL Server デー タベースをセットアップする必要があります。以下の手順 に従ってください:

注: 以下に述べるセットアップ手順は SQL Server データベースの作成に Microsoft SQL Server Management Studio Express を使用し、サーバーへのア ク セスには Windows 認証を使用することが前提となっています。SQL Server の 認証に 関する詳細は SQL Server のマニュアルを参照してください。

- 1)[スタート] > [すべてのプログラム] > [Microsoft SQL Server 2005] > [Configuration Tools] > [SQL Server Management Studio Express]を選択します。
- [サーバーへの接続] 画面で表示されたデフォルト設定を必要に応じて変更し、[接続] ボタンをクリックします。
 SQLServer Management Studio Express のウィンドウが開きます。
- オブジェクトエクスプローラのペインで [データベース]を 右クリックし、[新しいデータベース…]を選択します。
 [新しいデータベース]ウィンドウが開きます。
- 4) [全般]ページを開きます。データベース名としてリポジト リの名称を入力し、必要に応じて設定値を変更し [OK] を 入力します。オブジェクトエクスプローラのペインに新た なデータベースが追加表示されます。
- 注 : データベースの属性設定値の詳細は SQL Serverのマニュアルを参照して く ださい。

2

ハードウェア要件およ びソフトウェア要件

以下のセクションでは、ENTERPRISE ANALYZER をインストールする 場合のハード ウェア、ディスク・スペース、オペレーティング・シ ステム、および ソフトウェアの要件について説明します。

注:データベース・クライアントのハードウェア要件は、ワークベン チ・クライアントおよびワークベンチ・サーバーのテーブルに示され ます。データベース・クライアントのソフトウェア要件は、ワークベ ンチ・クライアントおよびワークベンチ・サーバーのソフトウェア要 件と同じです。ファイル・サーバーのハードウェア要件およびソフト ウェア要件は、ワークベンチ・クライアントおよびワークベンチ・ サーバーのハードウェア要件と同じです。

リポジトリー・サーバー・ハードウェア要件

リポジトリー・サーバーのハード・ディスク・ストレージ要件を以下 の表にリストします。その他のハードウェア推奨項目については、サ ポート・サービスに相談してください。

タイプ	推奨	注記
ハード・ディスク・ ストレージ	状況によって異なる	RDBMS および ENTERPRISE ANALYZER テンプレー ト・デー タベースの ソフトウェア・イン ストールには、最低でも 20GB のディスク・スペースが必要で す。 その ほかに、ENTERPRISE ANALYZER でモデル化 される アプリケーション・ソー ス・コードのバイト数 を約 60 倍にしたサイズ (例えば、 ソースが 100MB の 場合は 6GB) が必要です。

リポジトリー・サーバー・ソフトウェア要件

リポジトリー・サーバーのソフトウェア要件を以下の表にリストしま す。

ソフトウェア	注記
DB/2	DB/2 9.5
Oracle	 Oracle 10g、11g 注:リポジトリサーバーのバッチ更新処理 (BRP)を使用する場合、Oracleは.NETに対応している必要があります。BRPをローカル に実行するための Oracle の要件は以下の通りです: Windows XP または Windows Server 2003 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 2 または Oracle 11g Windows Vistaまたは Windows Server 2008の場合、Oracle 10g, Fix Pack 3 または Oracle 11g Windows 7 の場合 Oracle 11g
SQL Server	MS SQL Server 2005, 2008 または 2012

ENTERPRISE ANALYZER サーバー・ハードウェ ア要件

ENTERPRISE ANALYZER サーバーをインストールする場合のハード ウェア要件を以下の表にリストします。ハードウェア要件は、分析す るアプリケーションのサイズに応じて異なります。

•	タイプ	推奨	注記
	プロセッサー 2.6 GHz	デュアル・コア または、 2 つの 3.0 GHz 以上の プロセッサー	マルチ・コアのプロセッ サ ーを 1 つ使用するか、ま たは独立した複数の物理プ ロセッサーを使用したデュ アル処理機能が推奨されま す。
-	物理メモリー	3GB RAM	

仮想メモリー	1GB から 3GB まで	
ハード・ディスク・	状況によって異なる	ENTERPRISE ANALYZER でモデ ル化される アプリケーショ
ストレージ		ン・ソース・コードのバイト 数 を約 40 倍にしたサイズ。 ENTERPRISE ANALYZER ソフトウ ェア用に、200MB 以上のディス ク・ス ペース。 Java アドオン用に、115MB 以上 データベース・クライ アント用に、200MB 以上のデ ィスク・スペース。

ENTERPRISE ANALYZER サーバー・ソフトウェ ア要件

ENTERPRISE ANALYZER サーバーをインストールする場合のソフト ウェア要件を以下の表にリストします。

ソフトウェア	注記
オペレーティング・システム	Microsoft Windows XP Professional Service Pack 3 以上 (32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2003 (32- Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2008 (32- Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2012 (64-Bit) Microsoft Windows 7 (32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows 8 (32-Bit/64-Bit)
データベース・クライアント	 Oracle または DB/2 の場合 1 つのワー クスペースを含む 1 つのデー タベー ス・スキーマに対して 1 つの構成 済み ODBC データ・ソース名 (DSN)。 Oracle クライアントで.NET に対応してい る必要があります。要件は以下の通りで す: Windows XP または Windows Server 2003 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 2 ま た は Oracle 11g Windows Vista または Windows Server 2008 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 3 または Oracle 11g Windows 7 の場合 Oracle 11g
Internet Explorer 6.0 以上(オプミン)	E
Microsoft Office(オプション)	Microsoft Office ファイル形式で保存す るレポート作成機能を備えた ENTERPRISE ANALYZERツールで 必要です。
Microsoft Visio (オプション)	出力を Microsoft Visio .VSD ファイルと して生成するために必要です。 注: Visio .VDX ファイルは XML ベース であり、ENTERPRISE ANALYZER EE クライ アントに Visio が インストールされて い ない場合でも生成 できます。
JRE 7 以上(オプション)	Java アドオン用に必要です。アドオンの インストール後にインストールできます。

ENTERPRISE ANALYZER クライアント・ハード ウェア要件

ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントをインストールする場合の ハードウェア要件を以下の表にリストします。ハードウェア要件は、 分析するアプリケー ションのサイズに応じて異なります。

タイプ	推奨	注記
プロセッサー	3.0 GHz プロセッサー	シングル・プロセッサー (シングル・コアまたはデ ュ アル・コア)。
物理メモリー	1GB RAM	
仮想メモリー	1GB から 3GB まで	
ハード・ディスク・ ストレージ	状況によって異なる	ENTERPRISE ANALYZER ソフト ウェア用に、200MB 以上のディ スク・スペース。 データ ベース・クライアン ト用に、 200MB 以上のディスク・スペ ース。

ENTERPRISE ANALYZER クライアント・ソフト ウェア要件

ENTERPRISE ANALYZER クライアントをインストールする場合のソフトウェア要件を以下の表にリストします。

ソフトウェア	注記
オペレーティング・システム	Microsoft Windows XP Professional Service Pack 3 以上(32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2003(32- Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2008(32- Bit/64-Bit) Microsoft Windows Server 2012(64-Bit) Microsoft Windows 7(32-Bit/64-Bit) Microsoft Windows 8(32-Bit/64-Bit)

データベース・クライアント	Oracle または DB/2 の場合 1 つのワー クスペースを含む 1 つのデー タベー ス・スキーマに対して 1 つの構成 済み ODBC データ・ソース名 (DSN)。 Oracle クライアントで.NET に対応してい る必要があります。要件は以下の通りで す:
	 Windows XP または Windows Server 2003 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 2 ま たは Oracle 11g Windows Vista または Windows Server 2008 の場合、Oracle 10g, Fix Pack 3 または Oracle 11g Windows 7 の場合 Oracle 11g
Internet Explorer 6.0(またはそ れ以上)	ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントで HTML レポート出力 を表示するために必要 です。 Enterprise View Express モジュールのク ライアントとして必要です。
Microsoft Office (オプション)	Microsoft Office ファイル形式で保存す るレポート作成機能を備えた ENIERPRISE ANALYZERツールで 必要です。
Microsoft Visio (オプション)	出力を Microsoft Visio .VSD ファイルと して生成するために必要です。 注: Visio .VDX ファイルは XML ベース で あり、ENTERPRISE ANALYZER EE クライ アントに Visio が インストールされて いない場合でも生成 できます。



このセクションで説明されているインストール・プログラムを実行す るには、インストールの実行場所となるマシンに対して管理許可が必 要です。管理許可がない場合は、インストール・プログラムを続行で きません。

データベース・クライアントのインストール

Oracle または DB/2 を使用する場合、ワークベンチのクライアントまた は サーバーをインストールする前に、ご使用のサイトで使用する RDBMS のクライアント・ソフトウェアをインストールして構成してお く必要が あります。ご使用のマシンに RDBMS クライアント・ソフトウ ェアがま だインストールされていない場合は、このセクションの指示に 従って RDBMS クライアント・ソフトウェアをインストールしてくださ い。

DB/2 クライアントのインストール

DB/2クライアントをインストールするには、このセクションの指示に 従ってください。

注: DB/2 クライアントは .NET に対応している必要があります。DB/2 ク ライアントの標準的なインストールでは .NET 対応コンポーネント がイ ンストールされます。

- 1. DB/2 クライアント・インストール用の setup. exe プログラムを ダブルクリックします。初期画面が表示されます。「製品のインス トール (Install a Product)」をクリックします。
- 2. インストールする製品を選択するように画面からプロンプトが出 されます。「IBM Data Server Client」の下にある「新規インストー ル (Install New)」をクリックします。
- 3. DB/2セットアップ・ウィザードが表示されます。「次へ」をク リックします。

- 「ソフトウェアご使用条件 (Software License Agreement)」画面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件の条項に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして条項に同意し、「次へ」をクリックします。
- 5. インストール・タイプを選択するように画面からプロンプトが出 されます。「標準(Typical)」を選択して「次へ」をクリックしま す。
- IBMData Server Clientをインストールするように画面からプロンプ トが出されます。「このコンピューターに IBM Data Server Client をインストール (Install IBM Data Server Client on this computer)」 を選択して「次へ」をクリックします。
- インストール・フォルダーを選択するように画面からプロンプトが出されます。事前入力された値を受け入れる場合は、「次へ」を クリックします。別のフォルダーを指定する場合は、「変更」をク リックして以下のサブステップに従います。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけま す。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インス トール時に作成されます。
 - b 「**OK**」をクリックして画面を終了し、インストール・フォ ル ダー画面に戻ります。
 - c インストール・フォルダー画面で「次へ」をクリックしま す。
- DB/2オブジェクトに対するオペレーティング・システムのセキュ リティーを使用可能にするように画面からプロンプトが出されま す。システム管理者やデータベース管理者から指示がない限りは、 「オペレーティング・システムのセキュリティーを使用可能にす る(Enable operating system security)」を選択解除して「次 へ」をクリックします。
- インストール・ファイルをコンピューターにコピーし始めるよう に画面からプロンプトが出されます。「インストール」をクリッ クして、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始しま す。進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。
- 10. 転送が完了すると、セットアップの完了を知らせる画面が表示されます。「次へ」をクリックします。
- 11. 追加製品をインストールするように画面からプロンプトが出され ます。「終了」をクリックします。

Oracle クライアントのインストール

Oracle クライアント・ソフトウェアをインストールして構成するには、 DBA からの以下の情報が必要となります。

 ワークスペース・リポジトリーの保管先となるデータベースの TNS サービス名。

- そのデータベースがあるコンピューターのホスト名。
- そのホストと通信するためのポート番号(標準ポート番号を使用 しない場合)。
- データベースのユーザー ID とパスワード。
- 1. Oracle クライアント・インストール用の setup.exe プログラムをダ ブルクリックします。初期画面が表示されます。
- 2. 「次へ」をクリックします。「インストール・タイプの選択 (Select Installation Type)」画面が表示されます。「カスタム」を選択します。
- 3. 「次へ」をクリックします。「ホーム詳細の指定(Specify Home Details)」画面が表示されます。必要に応じて、このインストール に対して別の名前とパスを入力します。別の名前とパスを入力し ない場合は、デフォルトを受け入れます。
- 「次へ」をクリックします。「使用可能な製品コンポーネント (Available Product Components)」画面が表示されます。以下のコン ポーネントを選択します。
 - SQL *Plus
 - Oracle JDBC/THIN Interfaces
 - Oracle Windows Interfaces。「Oracle Windows Interfaces」の下にある「Oracle ODBC Driver」以外のすべての項目を選択 解除します。
 - Oracle Call Interface (OCI)
 - Oracle Net
- 5. 「次へ」をクリックします。インストーラーは前提条件を調べて、 ご使用の環境がインストールの最小必要要件満たしていることを 確認します。必要に応じて、フラグが立てられた項目を解決しま す。
- 6. 「次へ」をクリックします。選択した内容を「要約」画面で確認し ます。エラーを修正する場合は、「戻る」ボタンを使用します。す べての情報が正しければ、「インストール (Install)」をクリックし ます。
- 7. インストールが完了すると、Oracle Net Configuration Assistant が起動されます。
- 8. 「次へ」をクリックします。「命名メソッド構成 (Naming Methods Configuration)」画面が表示されます。「選択されている命名メ ソッド (Selected Naming Methods)」フィールドに「ローカル命名 (Local Naming)」が表示されていることを確認します。

- 9. 「次へ」をクリックします。「Net サービス名構成 (Net Service Name Configuration)」画面が表示されます。「サービス名 (Service Name)」フィールドに、ワークスペース・リポジトリーの保管先 となるデータベースの TNS サービス名を入力します。これは、 DBA が指定する名前です。
- 10. 「次へ」をクリックします。「プロトコルの選択 (Select Protocols)」 画面 が表示されます。「TCP」を選択します。
- 「次へ」をクリックします。「TCP/IP プロトコル (TCP/IP Protocol)」画 面が表示されます。Oracle データベースがあるコン ピューターのホスト 名を入力します。これは、DBA が指定する名 前です。DBA から特に指示 がなければ、ポート番号には標準ポー ト番号の1521を使用します。
- 12. 「次へ」をクリックします。「テスト(Test)」画面が表示されます。 「はい、テストを実行します(Yes, perform a test)」を選択します。
- 「次へ」をクリックします。テストが成功しなかったというメッ セージ が表示されるはずです。これは、テスト用に使用されてい るデフォル ト・ログインが Oracle SYSTEM ログインであるためで す。ユーザー名と パスワードを、DBA が指定するユーザー名とパ スワードに変更する必 要があります。
- 「ログインの変更(Change Login)」をクリックします。「ログインの変更(Change Login)」ダイアログで、DBAが指定するユーザーIDとパスワードを入力します。
- 15. 「OK」をクリックします。今度は、接続テストが成功したという メッセ ージが表示されるはずです。テストがまだ成功しない場合 は、「ログイ ンの変更 (Change Login)」をクリックして、DBA が 指定する正しい資 格情報を入力したことを確認します。問題が解決しない場合は、DBA に 連絡してサポートを要請してください。
- 16. 「次へ」をクリックします。「Net サービス名 (Net Service Name)」画面 が表示されます。
- Net サービス名 (Net Service Name)」フィールドには、「Net サービ ス名構成 (Net Service Name Configuration)」画面で指定した TNS サービ ス名が事前に入力されています。「次へ」をクリック します。「追加 Net サービス名 (Additional Net Service Names)」画 面が表示されます。
- 「追加 Net サービス名 (Additional Net Service Names)」画面では、追加 TNS サービス名を構成します。構成する追加 TNS サービス名は、 接続先とす ベきデータベース・インスタンス1つに対して1つです。このステップ はオプションです。追加 TNS サービス名を構成する場合は、「はい」を選 択します。構成を完了する場合は、「いいえ」を選択します。

注:後から追加データベース・インスタンスに接続しなければならなく なった場合は、tnsnames.ora ファイルを手動で 編集することで TNS サ ービス名を追加できます。詳しくは、DBA に確認してください。

- 19. 「次へ」をクリックします。続けて、後続の 2 つの画面で「次へ」 をク リックして、Oracle Net の構成を完了します。
- 20. 「Oracle Net 構成完了 (Oracle Net Configuration completion)」画面 で 「終了 (Finish)」をクリックして、Net Configuration Assis-tant を 終 了します。

 Oracle インストーラーのウィンドウが表示されます。「終了 (Exit)」をクリックします。終了の確認プロンプトが出されます。 「はい」をクリックします。

ENTERPRISE ANALYZER サーバーへの ENTERPRISE ANALYZER のインストール

ENTERPRISE ANALYZER サーバーは、ENTERPRISE ANALYZER ワー クスペース・ファイルおよび関連サポー ト・ファイルをホストします。 ENTERPRISE ANALYZER をサーバーにインストールするに は、この セクションの指示に従ってください。

注: ENTERPRISE ANALYZER リポジトリーと同じマシンに ENTERPRISE ANALYZER をインストールしないでください。

- 製品のインストール・フォルダーに入っている setup.exe プログ ラムをダブルクリックします。必須ソフトウェアがインストール済みの場合 初期画面が表示されます。そうでない場合、不足しているソフ トウェアのインストールプロンプトが表示されます。
- 2. 「次へ」をクリックします。「ご使用条件 (License Agreement)」画 面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件 の条項に同意します (I accept the terms in the license agreement)」 をクリックして 条項に同意し、「次へ」をクリック します。
- 3. 「カスタマー情報 (Customer Information)」画面が表示されます。 ユーザー名と組織をそれぞれ「ユーザー名」フィールドと「組織 (Organization)」フィールドに入力します。「次へ」をクリックし ます。
- 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面が表示されます。イン ストール・フォルダーを選択します。事前入力された値を受け入 れる場合は、「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定す る場合は、「変更」をクリックして以下のサブステップに従いま す。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけま す。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インス トール時に作成されます。
 - b 「**OK**」をクリックして「現在の宛先フォルダーを変更」画面 を終了し、「宛先フォルダー」画面に戻ります。
 - c 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面で「次へ」を クリックします。

5. 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。「インストール」をクリックして、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。

注:設定を変更するには、該当項目が表示されるまで「戻る」を何度か クリックし、必要な変更を加えます。その後、「プログラムをインスト ールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面に戻るま で「次へ」をクリックします。

- 6. 転送が完了すると、「セットアップ完了 (Setup Complete)」画面が 表示されます。「終了」をクリックします。
- 次の HotFix をダブルクリックして実行して適用します。インストーラ が起動すると、セットアップ画面が表示されるので、 指示に従って、 HotFix を適用します。(HotFix 適用後は HotFix のみをアンインス トールすることはできない仕様となっています。)
 - HotFix05_3.5.00.800¥HotFix05-en.exe
- 8. すべての製品のインストール完了後、既存のワークスペースがあ る場合は、ワークスペースのアップグレードが必要です。

Javaアドオンのインストール

Java アドオンをインストールするには、製品のインストール・フォル ダーで Java.Addon.exe をダブルクリックします。

ENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバーの インストール(オプション)

あるサイトでは、マスター・ユーザーのみがワークスペース・ソース・ ファイルに Windows から アクセスできるようにしますが、 ENTERPRISE ANALYZER 上では通常のユーザーもソース・ファイルを 使用できるようにする必要があるとします。ENTERPRISE ANALYZER EEファイル・サーバーは、このようなサイト用のオプション製品です。 ワークスペース・フォルダーの特権が正しくセットアップされていれば、 通常のユーザーは、ENTERPRISE ANALYZER 上でソースを表示したり 分 析したりできますが、それ以外の目的ではそのソースにアクセスでき ません。

ファイル・サーバーを使用する場合、ENTERPRISE ANALYZER サーバーと同じマシンにそのファイル・サーバーをインストールする必要があります。ファイル・サーバーのインストール・パッケージはサーバーと同じ CD に収められています。

- ファイル・サーバー・インストール・フォルダーに入っている setup.exe プログラムをダブルクリックします。必須ソフトウェアがイン ストール済の場合初期画面が表示されます。そうでない場合、不足し ているソフトウェアのインストールプロンプトが表示されます。
- 「次へ」をクリックします。「ご使用条件 (License Agreement)」画 面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件 の条項に同意します (I accept the terms in the license agreement)」 をクリックして条項に同意し、「次へ」をクリックします。
- 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面が表示されます。イン ストール・フォルダーを選択します。事前入力された値を受け入 れる場合は、「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定す る場合は、「変更」をクリックして以下のサブステップに従いま す。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけま す。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インス トール時に作成されます。
 - b 「**OK**」をクリックして「現在の宛先フォルダーを変更」画 面 を終了し、「宛先フォルダー」画面に戻ります。
 - c 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面で「次へ」をク リックします。
- 4. 「セットアップ・タイプ (Setup Type)」画面が表示されます。「カ スタム」を選択して「次へ」をクリックします。
- 5. 「カスタム・セットアップ (Custom Setup)」画面が表示されます。 「ENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバー (RENTERPRISE ANALYZER File Server)」を 選択して「次へ」をクリックします。
- 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。「インストール」をクリック して、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。 進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。

注:設定を変更するには、該当項目が表示されるまで「戻る」を何度か クリックし、必要な変更を加えます。その後、「プログラムをインスト ールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面に戻る ま で「次へ」をクリックします。

7. 転送が完了すると、「セットアップ完了 (Setup Complete)」画面が 表示されます。「終了」をクリックします。

ENTERPRISE ANALYZER クライアントへの ENTERPRISE ANALYZER のインストール

ENTERPRISE ANALYZER クライアントは、サーバー上のワークスペー スに接続するため に使用されるリンク・ファイルをホストします。 ENTERPRISE ANALYZER をクライアント にインストールするには、 このセクションの指示に従ってください。

注: ENTERPRISE ANALYZER クライアントにインストールするセットアッ プは ENTERPRISE ANALYZER サーバーにインストールするものと同一です。

- 製品のインストール・フォルダーに入っている setup.exe プログ ラムをダブルクリックします。必須ソフトウェアがインストール済みの場合初 期画面が表示されます。そうでない場合、不足しているソフトウ ェアのインストールプロンプトが表示されます。
- 「次へ」をクリックします。「ご使用条件 (License Agreement)」画 面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件 の条項に同意します (I accept the terms in the license agreement)」 をクリックして 条項に同意し、「次へ」をクリック します。
- 3. 「カスタマー情報 (Customer Information)」画面が表示されます。 ユ ーザー名と組織をそれぞれ「ユーザー名」フィールドと「組織 (Organization)」フィールドに入力します。「次へ」をクリックし ます。
- 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面が表示されます。イン ストール・フォルダーを選択します。事前入力された値を受け入 れる場合は、「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定す る場合は、「変更」をクリックして以下のサブステップに従いま す。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけま す。指定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インス トール時に作成されます。
 - b 「**OK**」をクリックして「現在の宛先フォルダーを変更」画面 を終了し、「宛先フォルダー」画面に戻ります。
 - c 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面で「次へ」を クリックします。
- 5. 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。「インストール」をクリック して、ご使用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。 進行状況表示メーターに、転送の進行状況が示されます。

注:設定を変更するには、該当項目が表示されるまで「戻る」を何度か クリックし、必要な変更を加えます。その後、「プログラムをインスト ールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面に戻るま で「次へ」をクリックします。

- 6. 転送が完了すると、「セットアップ完了 (Setup Complete)」画面 が表示されます。「終了」をクリックします。
- 次のHotFix をダブルクリックして実行して適用します。インストー ラが起動すると、セットアップ画面が表示されるので、 指示に従って、 HotFix を適用します。(HotFix 適用後は HotFix のみをアンインスト ールすることはできない仕様となっています。)
 - HotFix05_3. 5. 00. 800¥HotFix05-en. exe
- 8. すべての製品のインストール完了後、既存のワークスペースがあ る場合は、ワークスペースのアップグレードが必要です。

ENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバ ー・クライアントの インストール(オプショ ン)

あるサイトでは、マスター・ユーザーのみがワークスペース・ソー ス・ファイルに Windows からアクセスできるようにしますが、 ENTERPRISE ANALYZER 上では通常のユーザーもソース・ファイルを 使用できるようにする必要があるとします。ENTERPRISE ANALYZER EE ファイル・サーバーは、このようなサイト用 のオプション製品です。 通常のユーザーは、ENTERPRISE ANALYZER 上でソースを表示したり 分析したりできますが、それ以外の目的ではそのソースにアクセスでき ません。 ファイル・サーバーを使用する場合、ENTERPRISE ANALYZER クライ アントと同じマシンにファイル・サーバー・クライアントをインスト

アントと同しマンシにファイル・サーハー・クライアントをインスト ールする必要があります。ファイル・サーバー・クライアントのインス トール・パッケージはクライアントと同じ CD に収められています。

- 1. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - Micro Focus の FTP サイトからファイル・サーバー・クライア ントをインストールする場合は、ファイル・サーバー・クラ イアントのインストール・フォルダーを自分のハード・ディ スクにコピーします。そのフォルダーに入っている setup.exe プログラムをダブルクリックします。初期画面が表 示されます。

 CD からファイル・サーバー・クライアントをインストール する場合は、CD を CD-ROM ドライブに挿入します。CD が自動実行され、 初期画面が表示されます。

注: CD が自動実行されない場合は、CD に収められているファイル・ サーバ ー・クライアント用インストール・フォルダー内の setup.exe プ ログラムをダ ブルクリックします。

- 「次へ」をクリックします。「ご使用条件 (License Agreement)」画 面が表示されます。ご使用条件をよくお読みください。「使用条件 の条項に同意します (I accept the terms in the license agreement)」をクリックして条項に同意し、「次へ」をクリック します。
- 3. 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面が表示されます。イン ストー ル・フォルダーを選択します。事前入力された値を受け入れる場合は、 「次へ」をクリックします。別のフォルダーを指定する場合は、「変更」 をクリックして以下のサブステップに従います。
 - a フォルダー構造をナビゲートして、適切な位置を見つけます。指 定した宛先フォルダーが存在しない場合は、インストール時に作 成されます。
 - b 「OK」をクリックして「現在の宛先フォルダーを変更」画面を終了 し、「宛先フォルダー」画面に戻ります。
 - c 「宛先フォルダー (Destination Folder)」画面で「次へ」をクリッ クします。
- 4. 「セットアップ・タイプ (Setup Type)」画面が表示されます。「カスタム」を選択して「次へ」をクリックします。
- 「カスタム・セットアップ (Custom Setup)」画面が表示されます。 「RENTERPRISE ANALYZER ファイル・クライアント (RENTERPRISE ANALYZER FIle Client)」を選択して「次へ」をクリックします。
- 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」画面が表示されます。「インストール」をクリックして、ご使 用のマシンにファイルを転送する処理を開始します。進行状況表示メー ターに、転送の進行状況が示されます。

注:設定を変更するには、該当項目が表示されるまで「戻る」を何度か クリッ クし、必要な変更を加えます。その後、「プログラムをインス トールする準備が できました (Ready to Install the Program)」画面に戻る まで「次へ」をクリック します。

7. 転送が完了すると、「セットアップ完了 (Setup Complete)」画面が表示 されます。「終了」をクリックします。

ENTERPRISE ANALYZER のアンインストール

ENTERPRISE ANALYZER 製品をアンインストールするには、以下の 指示に従ってください。アンインストール・プログラムを実行する前 に、開いている ENTERPRISE ANALYZER プログラムをすべて閉じて ください。

- 1. 「スタート」:「設定」:「コントロール パネル」を選択します。
- 2. 「コントロールパネル」ウィンドウで「プログラムの追加と削除」 アイコンをダブルクリックします。
- 「プログラムの追加と削除」ウィンドウで、アンインストールする製品を選択し、「削除」をクリックします。製品のアンインストールを確認するプロンプトが出されます。「はい」をクリックします。
- アンインストール処理が完了すると、コンピューターを再始動するように求めるプロンプトが表示されます。直ちに再始動するには「はい」を、後で再始動する場合は「いいえ」をクリックします。

ポストインストール管

4

理用タスク

ENTERPRISE ANALYZER で作業を行うには、このセクションの説明 にある基本的な管理用タスクを完了する必要があります。インストー ルを完了したときに、ライセンス・ロケーションを指定して最初の管 理用タスクを実行するようにプロンプトが出されます。

ワークベンチの構成

サイトで使用するプログラミング言語、ダイアレクト、文字セット、 および製品に合わせてワークベンチのオプションと表示を構成するに は、ワークベンチ管理ツールの構成マネージャーを使用します。

例えば、COBOL 用にワークベンチを構成する場合は、COBOL の最新 化に適したワークベンチ・オプションと内容のみが表示されます。 PL/I 用にもワークベンチを構成する必要がある場合は、いつでも構成 マネージャーに戻ることができるので、COBOLに加えてPL/Iも選択 できます。

- 1. 「構成マネージャー」ウィンドウを開きます。
 - ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントまたはサーバーを インストールしている場合は、ライセンス・ロケーションの 指定を終了すると、 「構成マネージャー」ウィンドウが表示されます。
 - すでに ENTERPRISE ANALYZER EE クライアントまたはサーバーを インストール していて、それを再構成する必要がある場合 は、「スター ト」:「プログラム」:「Micro Focus」:
 「Enterprise Analyzer Administration」を選択します。
 「Enterprise Analyzer Administration」ウィンドウが表示され ます。「管理」メニューで「ワークベンチの構成」を選択します。

注 : ワークベンチが開いている場合は、終了するようにプロンプトが出されます。「OK」をクリックして、ワークベンチを閉じます。



- 2. サイトで現在使用している各プログラミング言語、ダイアレクト、 および文字セットを選択します。サイトで使用する各ワークベンチ 製品を選択します。中核となる Application Analyzer 製品は 常に選択 されています。標準的なワークベンチ構成では使用され ないツール を使用可能にするには、「追加ツール」を選択します。 選択に問 題がない場合は、「OK」をクリックします。
 - 注: ワークベンチ構成を変更する場合は、前の構成で作成されたワーク スペースを必ずアップグレードしてください。

Enterprise Analyzer を構成する 3 製品 (Application Analyzer, Business Rule Manager, Application Architect) はすべてワークベンチと共にインストールされますが、それぞれ個別にランセンスされます。各製品のライセンスを管理するには以下の手順に従ってください。

Application Analyzer のライセンス

Application Analyzer のユーザはインストール後 30日間はライセンス認 証 なしに使用することができます。インストール時に Sentinel RMS ライ セ ンスサーバーが同時にインストールされます。お客様サイトでのライ センスモデルに応じて以下のいずれかの方法で管理することができます。

- ●使用するコンピュータにインストール済みの Sentinel License Server を使用したローカル管理
- ライセンスの集中管理用に構成された Sentinel License Server を使用 したリモート管理

ライセンス認証を行う前にはワークベンチを起動するたびに毎回認証な しで使用できる期間を通知するダイアログが現れます。 ローカル管理の場合は、16桁の Application Analyzer 認証コードを入力 し [Authorize] をクリックしてください。

リモート管理の場合は、[Advanced] をクリックし [License Server] の IP アドレスを構成済み License Server のアドレスに変更してください。

Business Rule Manager と Application Architect のライセンス

Business Rule Manager と Application Architect には 30 日間の認証不要期間 はありません。それぞれに対する 16 桁の認証コードを入力するまで使 用することはできません。

ODBC データ・ソース名の構成

ODBC データ・ソース名 (DSN)は、データベース・インスタンスに接続するための一連の資格情報です。ENTERPRISE ANALYZER で作業するには、ワークス ペース・リポジトリーを保持する データベースの DSN を構成しておく 必要があります。

DB/2 ODBC データ・ソース名の構成

DB/2 ODBC データ・ソース名 (DSN)を構成するには、DBA から以下の 情報を入手する必要があります。

- ワークスペース・リポジトリーの保管先となるデータベースの 名 前。
- そのデータベースがあるコンピューターのホスト名。
- そのホストと通信するためのポート番号(標準ポート番号を使用しない場合)。

注:DSNをいつでも確認できるようにしておいてください。 RENTERPRISE ANALYZER ワークスペースを作成するときに、DSN を 指定する必要があります。ワークスペースの作成方法については、 ワ ークベンチ資料セットにある 「始めに」を参照してください。

- 1. Windows の「コントロールパネル」で「管理ツール」をダブル クリックします。「管理ツール」ウィンドウが表示されます。
- 2. 「データソース(**ODBC**)」をダブルクリックします。「ODBC デー タ ソースアドミニストレータ」ウィンドウが表示されます。
- 3. 「システム DSN」タブを選択して「追加」をクリックします。 「データ ソースの新規作成」ウィンドウが表示されます。
- 「IBM DB2 ODBC DRIVER DB2COPY1」を選択して、「完了」をク リッ クします。「ODBC IBM DB2 ドライバー構成(ODBC IBM DB2 Driver configuration)」ダイアログが表示されます。

ODBC IBM DB2 D	river - Add 🛛 🔀
Select the DB2 data or select Add to cre data source name a	abase alias you want to register for ODBC, ate a new alias. You may change the nd description, or accept the default.
Data source name	
Database alias	Add
Description	
	OK Cancel

- 5. 「データ・ソース名 (Data Source Name)」フィールドに、データ・ソー スを識別するための名前を自由に入力します。全社的に使用 する共通 DSNを DBA が指定している場合は、それをここに入力 します。
- 6. オプションで「説明 (Description)」フィールドにデータ・ソース の説 明を入力します。
- 7. 「データベース別名 (Database alias)」フィールドのドロップダウ ンから既存のデータベース別名を選択し、「OK」をクリックしま す。
- 8. データベース別名が定義されていない場合は、「追加」をクリッ クし ます。「CLI/ODBC 設定 (CLI/ODBC Settings)」ウィンドウが表 示されま す。

CLI/ODBC Settings - DB2Tes	it2
Data Source TCP/IP Security	options Advanced Settings
Data source name Description	DB2Test2 DB for workspaces
User ID Password	
	Save password
·	OK Cancel Apply Help

- 「データ・ソース (Data Source)」タブの「データ・ソース名 (Data source name)」フィールドと「説明 (Description)」フィールドに は、「ODBC IBM DB2 ドライバー構成 (ODBC IBM DB2 Driver configuration)」ダイアログで指定した情報が事前に入力されてい ます。「ユーザー ID (User ID)」フィールドにドメイン・ユーザー 名を入力します。「パスワード (Password)」フィールドにドメイ ン・ユーザーのパスワードを入力します。これらのフィールドで は大 / 小文字が区別されます。
- 10.「TCP/IP」タブを選択します。

CLI/ODBC Settings - DB2Test2	
Data Source TCP/IP Security option	ns Advanced Settings
Database name	
Database alias	
Host name	
Port number	
The database physically reside	es on a host or <u>O</u> S/400 system.
Connect directly to the ser	rver
C Connect to the server via	the gateway
DCS Parameters	
INTERRUPT_ENA	ABLED
Optimize for application	
	•
	OK Cancel Apply Help

- 11.「TCP/IP」タブで以下の情報を指定します。
 - 「データベース名 (Database name)」フィールドに、ワーク スペース・リポジトリーの保管先となるデータベースの名前 を入力します。
 - 「データベース別名 (Database alias)」フィールドにデータ ベース別名を入力します。
 - 「ホスト名」フィールドに、データベースがあるコンピュー タ ーのホスト名を入力します。
 - 「ポート番号」フィールドに、ホストと通信するためのポート番号を入力します。DBAから特に指示がなければ、ポート番号には標準ポート番号の50000を使用します。
- 12. 「OK」をクリックします。「ODBC データ ソース アドミニスト レ ータ」ウィンドウに戻ります。新規データ・ソース名を選択し て、 「構成」をクリックします。データ・ソースの「CLI/ODBC 設 定 (CLI/ODBC Settings)」ウィンドウが表示されます。
- 「データ・ソース (Data Source)」タブの「データ・ソース名 (Data source name)」フィールドと「説明 (Description)」フィールドには、「ODBC IBM DB2 ドライバー構成 (ODBC IBM DB2 Driver configuration)」ダイアログで指定した情報が事前に入力されています。「ユーザー ID (User ID)」フィールドにドメイン・ユーザー名を入力します。「パスワード (Password)」フィールドにドメイン・ユーザーのパスワードを入力します。これらのフィールドでは大 / 小文字が区別されます。「接続 (Connect)」をクリックして、データベース接続をテストします。接続が正常に確立されたことが通知されます。「OK」をクリックします。

注 : エラーが発生する場合は、ドライバー構成の設定を確認して、接続 を再テストしてください。問題が解決しない場合は、DBA に確認して く ださい。

14. 「**OK**」をクリックして、「CLI/ODBC 設定 (CLI/ODBC Settings)」ウィ ンドウを閉じます。続いて、「**OK**」を再度クリックして「ODBC デ ータ ソース アドミニストレータ」ウィンドウを終了します。

Oracle ODBC データ・ソース名の構成

Oracle データ・ソース名 (DSN) を構成するには、ワークスペース・リポ ジトリーの保管先となるデータベースの TNS サービス名を指定してお く必要があります。これは、リポジトリー・クライアントをインスト ールしたときに入力した TNS サービス名です。Oracle DSN を構成する には、データベースのユーザー ID とパスワードも DBA から入手する 必要があります。

注: DSN をいつでも確認できるようにしておいてください。 ENTERPRISE ANALYZER ワークスペースを作成するときに、DSN を 指定する必要があります。ワークスペースの作成方法については、ワ ークベンチ資料セットにある 「始めに」を参照してください。

- 1. Windows の「コントロールパネル」で「管理ツール」をダブルク リックします。「管理ツール」ウィンドウが表示されます。
- 2. 「データ ソース (ODBC)」をダブルクリックします。「ODBC デー タ ソース アドミニストレータ」ウィンドウが表示されます。
- 3. 「システム DSN」タブを選択して「追加」をクリックします。 「データ ソースの新規作成」ダイアログが表示されます。
- 適切な Oracle ドライバーを選択して「完了」をクリックします。 「Oracle ODBC ドライバー構成 (Oracle ODBC Driver Configuration)」ウィンドウが表示されます。

	nigaration	
Data Source Name	MyDataSource	<u> </u>
Description	RMW Multi-User	Cancel
TNS Service Name	RMWPROD	Help
Liser ID	MyUserName	Test Connection
Application Oracle Wo	orkarounds SQLServer Migration	
Application Oracle Wo Enable Result Sets Enable Closing Cursors	orkarounds SQLServer Migration I Enable Query Timeout I Read-Only Connection I Enable Thread Safety II	1
Application Oracle Wo Enable Result Sets Enable Closing Cursors Batch Autocommit Mode	orkarounds SQLServer Migration I▼ Enable Query Timeout I▼ Read-Only Connection Γ Γ Enable Thread Safety I▼ Commit only if all statements succeed	

- 5. 「Oracle ODBC ドライバー構成 (Oracle ODBC Driver Configuration)」 ウィンドウで以下の情報を指定します。
 - 「データ・ソース名 (Data Source Name)」フィールドに、 データ・ソースを識別するための名前を自由に入力します。 全社的に使用する共通DSN を DBA が指定している場合は、 それをここに入力します。
 - オプションで「説明 (Description)」フィールドにデータ・ ソースの説明を入力します。

- 「TNS サービス名 (TNS Service Name)」ドロップダウンで、 ワ ークスペース・リポジトリーの保管先となるデータベース の TNS サービス名を選択します。選択項目が表示されなか ったり、選択する名前が分からなかったりする場合は、DBA に 問い合わせてください。
- 「ユーザー ID (User ID)」フィールドに、DBA が指定するデ ー タベース・ユーザー ID を入力します。
- 「テスト接続 (Test Connection)」をクリックします。「Oracle ODBC ドライバー接続 (Oracle ODBC Driver Connect)」ウィンドウ が表示されます。
- 「Oracle ODBC ドライバー接続 (Oracle ODBC Driver Connect)」ウ ィンドウの「サービス名 (Service Name)」フィールドと「ユーザ ー ID (User ID)」フィールドには、「Oracle ODBC ドライバー 構成 (Oracle ODBC Driver Configuration)」ウィンドウで指定 した情報が事前に入力されています。ユーザーIDに対するパス ワードを 入力して、「OK」をクリックします。接続が正常に確立 されたこと が通知されます。「OK」をクリックします。

注:エラーが発生する場合は、ドライバー構成の設定を確認して、接続を再テストしてください。問題が解決しない場合は、DBA に確認してください。

8. 「OK」をクリックして、ドライバー構成ウィンドウを終了しま す。続いて、「OK」を再度クリックして「ODBC データ ソース ア ド ミニストレータ」ウィンドウを終了します。

ワークスペースの共用フォルダーの作成

ワークスペースの作成場所にしようとしているフォルダーは、チーム・メンバーで共用されなければなりません。通常は、ワークスペースを作成する前にフォルダーを共用する方が便利ですが、必要に応じて後でフォルダーを共用してからワークスペース・パスを更新することもできます(ワークベンチ資料セットの「始めに」を参照)。

ワークスペースの共用フォルダーを作成するには、以下の指示に従ってください。共用フォルダーを作成するユーザーは、管理者でなければなりません。

 ENTERPRISE ANALYZER サーバー・マシンに ENTERPRISE ANALYZER ワークスペースの フォルダーを作成 します。フォルダーを選択 して、右クリック・メニューで「共有 とセキュリティ」を選択 します。そのフォルダーの「プロパティ」 ダイアログが表示され ます。「プロパティ」ダイアログの「共 有」タブで「ネットワ ーク上でこのフォルダを共有する」(または、Windows ドメイン 内のマシンでは「このフォルダを共有する」)を選択します。 「共有名」フィールドに共用名を入力して「適用」をクリックします。

注 : 共用名にはスペースを含めないでください。スペースを含めると、 他のユーザーがそのフォルダーにアクセスできなくなることがあります。

「アクセス許可」をクリックします。「フォルダーのアクセス許可」ダイアログが表示されます。フォルダーを共用するユーザーに対して適切な許可を指定し、「OK」をクリックします。

ファイル・サーバー・セットアップ

あるサイトでは、マスター・ユーザーのみがワークスペース・ソー ス・ファイルに Windows から アクセスできるようにしますが、 ENTERPRISE ANALYZER 上では通常のユーザーもソース・ファイル を使用できるようにする必要があるとします。ENTERPRISE ANALYZER EE ファイル・サーバーは、このようなサイト用 のオプシ ョン製品です。ワークスペース・フォルダーの特権が正しくセットア ップされていれば、通常のユーザーは、ENTERPRISE ANALYZER 上 でソースを表示したり分析したりできますが、それ以外の目的ではそ のソースにアクセスできません。

ワークスペース・フォルダー特権をセットアップするには、以下の指示に従ってください。最初の2つのステップを実行するユーザーは、管理者でなければなりません。

注:サイトでENTERPRISE ANALYZER EEファイル・サーバーが使用され ている 場合、ENTERPRISE ANALYZER クライアント・マシンではマ スター・ユーザーを構成できません。クライアント・マシン上のすべ て のユーザーが通常のユーザーでなければなりません。

- ENTERPRISE ANALYZER サーバー・マシンで「設定」:「コントロー ルパネル」:「管理ツール」:「コンピュータの管理」を開きます。 「コンピュータの管理」ウィンドウで、EA Masters と EA Users という2つのグループを作成します。EA Masters グループには、管理 者などのマスター・ユーザーを入れます。EA Users グループ には、通常のユーザーを入れ、「3つのグループ・セキュリティ ー・ポリシー (Three-Group Security Policy)」を使用する場合は、 エキスパート (SME) も入れます。
 - 注: グループ名は任意です。希望する名前を使用できます。
- ENTERPRISE ANALYZER サーバー・マシンに ENTERPRISE ANALYZER ワーク スペースの フォルダーを作成 します。フォルダーを選択して、右クリ ック・メニューで「共有 とセキュリティ」を選択します。そのフォルダ ーの「プロパティ」 ダイアログが表示されます。「プロパティ」ダイア ログの「共 有」タブで「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」 (また は、Windows ドメイン内のマシンでは「このフォルダを共有す る」)を選択します。「共有名」フィールドに共用名を入力して 「適用」をクリックします。

注:共用名にはスペースを含めないでください。スペースを含めると、他の ユーザーがそのフォルダーにアクセスできなくなることがあります。

3. 「プロパティ」ダイアログの「セキュリティ」タブで、ENTERPRISE ANALYZERMasters グループと ENTERPRISE ANALYZERUsers グループ、 およびローカル SYSTEM アカ ウントに共用フォルダーのフル・アクセ ス 許可を付与して、

「OK」をクリックします。

 4. 共用フォルダーに新規ワークスペースを作成します。「接続」タブで接続パラメーターを定義した後で「セキュリティ」タブをクリックし、 「RENTERPRISE ANALYZER ファイル・サーバーを介したセキュ ア・ソース・アクセス」を選択します。サーバー名は、ENTERPRISE ANALYZERサーバー・マシンの名前にします。ポート番号の値はその ままにして、「OK」 をクリックします。

注: 新規ワークスペースの作成について詳しくは、ワークベンチ資料 セットにある「始めに」を参照してください。

- ワークスペースのフォルダーにある Sources サブフォルダーを右 クリ ックして、「プロパティ」を選択します。「Sources のプロパティ」ダ イアログで「セキュリティ」タブをクリックします。 「セキュリティ」タブで「詳細設定」をクリックします。 「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログで「子オブジェクトに 適用するアクセス許可エントリを親から継承し、それらを ここで明示 的 に定義されているものに含める」を選択解除します。「セキュリテ ィ」ダイアログが表示されます。「セキュリティ」ダイアログで「コピ ー」をクリックします。「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイア ロ グに戻ります。
- 「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログで「子オブジェ クト すべてのアクセス許可エントリを、ここに表示されているエ ントリで 子オブジェクトに適用するもので置換する」を選択します。「アクセス 許可エントリ」リストで EA Users グループを 選択して、「削除」をク リックします。
- Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログで「追加」をク リッ クします。「ユーザー、コンピュータ または グループ の選 択」ダイ アログが表示されます。「ユーザー、コンピュータ または グループ の 選択」ダイアログで EA Masters(または、ENTERPRISE ANALYZER マス ター・ユーザー・グループに対して選択した任意の名前)を 入力して、 「OK」をクリックします。「Sources のアクセス許可エントリ」ダイア ロ グが表示されます。「フルコントロール」設定で「許可」にチェッ ク・マークを付けて、「OK」をクリックします。「Sourcesのセキュリ ティの詳細設定」ダイアログに戻ります。
- 8. 「Sources のセキュリティの詳細設定」ダイアログで「OK」をク リッ クします。続行を求めるプロンプトが出されます。「はい」 をクリック します。「Sources のプロパティ」ダイアログで「OK」 をクリックし ます。

ワークスペースのアップグレード

ワークベンチ構成を変更する場合は、前の構成で作成されたすべて のワークスペースをアップグレードする必要があります。ワークス ペー スをアップグレードできるのは、マスター・ユーザーのみです。

- 「スタート」:「プログラム」:「Micro Focus」:「Enterprise Analyzer Administration」を選択します。「Enterprise Analyzer Administration」ウィンドウが表示されます。
- 「Administration」ウィンドウの「管理」メニューで「ワークス ペースのアップグレード」を選択します。「ワークスペースの アップグレード」ダイアログが表示されます。このダイアログで、アップグレードするワークスペースを選択できます。

5

インストールのトラブ ルシューティング

ENTERPRISE ANALYZER EE のインストールのトラブルシューティン グを行うには、このセ クションの指示に従ってください。

Oracle エラーのトラブルシューティング

一般的な Oracle エラーをトラブルシューティングするには、このセク ションの指示に従ってください。

ORA-00958: 名前が既存のオブジェクトによってすでに使用されています (name is already used by an existing object)

このエラーは、別のスキーマの作成にすでに使用されている Oracle ID で ワークスペースのスキーマが作成されたことが原因で発生しま す。Oracle スキーマの作成には、固有の Oracle ID を使用する必要が あります。

ORA-01034: Oracle を利用できません (ORACLE not available)、 ORA-27101:共用メモリー領域が存在しません (shared memory realm does not exist)

> これらのエラーは、Oracle インスタンスが実行されていないことが原 因で発生します。ORA-27101 は、SGA サイズなどのデータベース・パ ラメーターを変更しようとしたことが原因で発生する可能性がありま す。

ワークスペース・アクセスのトラブルシュー ティング

ワークスペースの作成場所にしようとしているフォルダーは、チーム・メンバーで共用されなければなりません。ユーザーがワークスペースにアクセスできない場合は、以下のことが原因として考えられます。

- ワークスペースのフォルダーを共用していない。フォルダーを共用してワークスペース・パスを更新してください(ワークベンチ 資料セットの「始めに」を参照)。
- ワークスペースの作成後にワークスペースのフォルダーを共用した。ワークスペース・パスを更新してください(ワークベンチ資料セットの「始めに」を参照)。
- フォルダーの「共有名」フィールドの値にスペースが入っている。スペースを除去してワークスペース・パスを更新してください(ワークベンチ資料セットの「始めに」を参照)。